巻　頭　言

今後の人員計画について

技術センター長　山本陽介

前号の巻頭言では，広島大学にとって最重要であった「研究大学強化促進事業」に選定されたこと，研究環境・支援体制の充実を図るという大学の基本方針が示されたことなどを述べました．技術センターが研究支援体制の充実の一翼を担うことも確認され，6 名の技術職員を新たに採用することが公約とされました.

当センターとしては，この新規採用枠の取扱いが重要な課題でしたので，理事（研究担当）および人事･学術支援グループを交えて協議しました. その結果, 事業終了後には定員に組み込むこと，定員削減は今後も継続することが決まり，人員管理の長期計画を立案する必要が生じました．15 年後くらいまでの定年退職等に基づいた定員ポイントのシミュレーションを行った結果，事業が終了する 9 年後の定員ポイントはぎりぎりでした. つまり, 退職者の後任を補充しなかったとしても，定員ポイントはほんの少し余る程度であることがわかりました．特に，ものづくりプラザは構成員の年齢が高いため，補充を行わないと，近々にも人員不足による業務の延滞や縮小，技術が伝承できないなどの影響が出て，大変な状況になることがわかりました.

そこで，対応策として，1）技術センターの支援方針を策定，全学的な方針決定を行った上で，全学構成員に周知徹底を図る，2)技術センターの主業務は全学支援という原則をさらに厳格に徹底する（全学＞部局＞専攻＞研究室），3)技術職員の業務は技術職員以外では対応不可能な業務に絞る，4)後任補充は行わないことを原則とするとともに，技術職員の新規採用枠も議論，などを案として，5 月 22 日に学長との協議を行いました．学長にはとても真剣にお聞きいただいて，「教員は減らしてでも，技術職員を増やした方が大学の研究・教育支援という点から考えても良いことだよね」とおっしゃいました（教員としては素直に喜べませんでしたが）．また，その場で，「もう少し広い場で，技術センターの業務内容および成果を説明するように」とご指示いただきましたので，7 月 15 日の部局長等意見交換会で，1）派遣先での業務の概略，2)派遣先での技術職員の活動（全職員の氏名入りの業務内容リストなど），3)技術職員の活動から得られた成果（研究や教育にどう貢献しているか）というポイントで説明させていただきました．その席で，学長から，「他の部署は削ってでも技術センターの職員を増やすべきと考えている」というまとめのお言葉をいただき，大変ありがたかったです.

とは言いましても，定員ポイントの削減がなくなるのではなく，大学全体で必要と認めてくださった少しの分だけ補充できるかもしれないということですので，非常に具体的に補充枠の長期計画（15 年後まで）を立案してきました．その状況は，9 月 30 日の第 11 回技術センター研修会でお話ししました.

その後も立案を続け，関係する技術職員のグループには協議の場を設け，吉田理事，人事・学術

支援グループには基本的な了承を得ましたが，平成 27 年 4 月，大学の執行部が新体制に変わるため，平成 26 年度中に教員と協議することを見送りました．平成 27 年度は，先ず新学長とこの人員計画案を基に協議させていただいた後に，各研究科・センターの教員と協議させていただこうと考えております．

最後になりましたが，教員との連携・技術職員間の連携の強化を目指して開始した技術センター研修会も昨年度で 11 回目となりました．霞の広仁会館で開催し，基調講演は大学院医歯薬保健学研究院　里田隆博教授の「模型を使った解剖学教育～耳小骨模型と嚥下模型を用いて～」でした．ご自身が手作りで製作された模型に実際に触れさせていただき，複雑な耳の仕組み等が良く理解できました．また，里田先生の教育への情熱も本当に素晴らしいと感じました．里田先生におかれましては，大変お忙しい中，ご講演いただき，誠にありがとうございました．

今後，技術センターを取り巻く環境はさらに厳しくなると予想されますが，このように教員との連携を密にして，さらに信頼される技術センターとなることが非常に重要だと思っております．そのためには，やはり日々の更なる精進が肝心です．是非，よろしくお願い申し上げます．

平成 27 年 4 月記